30P1-am009

病院実務実習へのEvidence-Based Medicine(EBM)カリキュラムの導入と評価

○田中　守[1], 末丸　克矢[1], 荒木　博陽[1]([1]愛媛大学病院薬)

【目的】近年，医療技術や情報技術の急速な進歩に伴い，科学的根拠に裏付けされた最新の医療知識を効率よく入手し，患者中心の医療を提供することが求められている。その手段として Evidence-Based Medicine（EBM）が重視され，薬剤師は薬剤管理指導業務, TDM データ解析および医薬品情報提供等あらゆる業務においてエビデンスを活用することが重要となってきた。そこで、学生のころから EBM を学習・体験することが専門性を活かす薬剤師を目指すために必要であると考え，病院実務実習に EBM の概念を導入した医薬品情報提供の実習（EBM 実習）を組み込んだ。今回，本実習の評価を行ったので，実習の概要と併せて報告する。

【方法】EBM 実習は，EBM 関連の事前講義と EBM の各ステップ（(1)臨床問題・疑問の定式化（判断をもとめられている課題をまとめる），(2)エビデンスの検索，(3)エビデンスの検証・批判的吟味，(4)エビデンスの適応，(5)医師あるいは看護師への説明）が学習・体験できる実習を組み込んだ。学生には，ランダム化比較試験やメタアナリシスの検討結果が記載されている臨床試験論文の読破が必要な課題を与えた。また，最終段階として医師を想定した薬剤師に，課題に対する口頭発表を行うこととした。実習終了時に学生にアンケート調査を行い，本実習の評価を行った。

【結果・考察】事前講義と EBM の各ステップを学習・経験することで EBM の全体像が把握でき, EBM 実習への理解度ならびに満足度の自己評価が向上したことが判明した。